

令和元年度 第2回 総合教育会議

令和元年9月3日（火）
午後2時から4時まで
県庁別館8階第一会議室A、B、C

次 第

1 開会

- (1) 知事挨拶
- (2) 教育長挨拶

2 議事

- (1) 第1回協議事項に関する実践委員会からの報告
- (2) 生涯にわたり学び続ける教育の充実
- (3) その他

3 閉会

令和元年度 第2回総合教育会議 座席表

日時：令和元年9月3日(火) 午後2時～4時
 場所：県庁別館8階第一会議室A、B、C

(
入
口
)

木苗
直秀
教育長
○

川勝
平太
知事
○

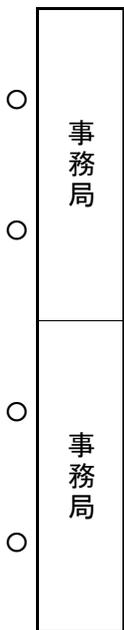
地域自立のための
「人づくり・学校づくり」
実践委員会
矢野 弘典 委員長 ○

小野澤 宏時 委員 ○

○ 渡邊 靖乃 委員

○ 藤井 明 委員

○ 加藤 百合子 委員



ビデオカメラ
(固定)

○関係部局長 ○知事戦略監 ○副知事

○教育部長 ○教育監

○知事部局・教育委員会事務局 関係課室長

(
入
口
)

第 1 回協議事項に関する実践委員会からの報告

協議事項「国内外で活躍できる人材の育成」

論点 2：県立高校における魅力ある教育環境の充実

<伊東地区新構想高校への改編に関する意見>

- 統合により商業高校で実施されている実践的な教育内容を普通科高校に上手く取り込むことで、産業界との繋がりによる深い学びが実現でき、将来に可能性のある新しい学校になっていくのではないかな。
- 自然環境や資源を活かした他県にない静岡県独自の教育を推進する新しい学校をつくるという視点で考えていくと良いのではないかな。
- 高等学校に特別支援学校を併置する共生・共育は大変意義深い。ただし、成功するケースとそうではないケースがある。城ヶ崎分校と伊豆高原分校の場合では、それぞれの特色を考慮し、多様性を生かすという観点で、当面存続させるべきである。
- 分校のように学校規模が小さくても、学校の特徴や多様性を活かすことを考え、その学校がもつ良い芽を潰さないような配慮が必要ではないかな。
- 分校生として、何か残してやろう、何かつってやろうといった反骨精神を消したくない。学校規模の問題ではなく、分校であるからこそ生まれる生徒たちの気概は大事にするべきではないかな。
- 伊豆高原分校の生徒にはゆとりある敷地を利用し、地域に開かれた学校で農業を通じて地域との繋がりを持って学んでほしい。
- 伊東城ヶ崎分校の芸術分野での実績を考慮すると、すぐに新構想学校として統合するのではなく、時機を見ながら一緒にしていくことが良いのではないかな。
- 伊東高校と伊東商業高校にそれぞれ建設する際のメリットとデメリットがあるため、建物の工夫をして進めてもらいたい。

協議事項 生涯にわたり学び続ける教育の充実に関する論点

技術革新やグローバル化の更なる進展等により、様々な変化が予想される中、誰もが生き生きと活躍し、豊かで安心して暮らせる社会を実現するためには、生涯にわたり主体的に学び続けられる環境の整備が必要である。

そのためには、小学校から高等学校にかけては、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことにより、確かな学力の向上を図ることが重要である。

さらに、一人一人が様々な社会変化を乗り越えながら、生涯にわたって学び続ける意欲を保ち、ライフステージに応じた学びの機会を確保できる環境づくりが重要である。

これらの取組により、生涯を通じて「才徳兼備」の人材を育む教育を推進していく必要がある。

論点1：確かな学力の向上

確かな学力の向上に向けて、新しい時代に必要となる資質・能力を育成し、きめ細かな教育を進めるためには、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

- ・知識の理解の質を高める読解力、論理的思考力等の育成
- ・英語教科化に対応した外国語教育の充実
- ・全国学力・学習状況調査の効果的な活用
- ・優れた能力を更に伸ばすことのできる教育の充実

論点2：ライフステージに対応した教育の充実

それぞれのライフステージにおいて、誰もが必要な知識・技能を身に付け、自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる教育を実現するために、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

- ・社会人の実践的な職業教育や学び直しへの対応
- ・社会人を対象にした学習機会の充実
- ・高等教育機関（大学等）と初等・中等教育（小学校～高等学校）との連携の在り方

生涯にわたり学び続ける教育の充実に関する実践委員会の意見の総括

<論点1：確かな学力の向上>

- ・授業でITを活用し、個人やチームで課題を見つけて解決していくような学習を進めていくと、実社会で役立つ能力を養える。また、子供の自発性を伸ばす教育は、子供にとって学びが楽しくなるのではないかな。
- ・論理的思考力を高めるためには、子供たちが国語を学ぶ目的と、学ぶことによって何の役に立つのかが見えてくることが大切ではないかな。
- ・学校の中に異文化を身近に感じさせるきっかけや工夫があると、子供たちの世界が広がり人生が楽しくなることを感じてもらえるのではないかな。
- ・学生時代から実社会で活かせる能力を育むために、学校だけではなく、企業が学生に対してもっといろいろな経験やチャンスを与えて、彼らに自信を付けさせていくことが大切ではないかな。
- ・13～18歳くらいの才能をどのように伸ばしていくのかを見られる指導者が必要である。

<論点2：ライフステージに対応した教育の充実>

- ・社会人が大学や大学院に進学する際、職場から学びへの橋渡しができる専門的な塾や講習の開設などのバックアップがあれば良い。また、社会人入学や大学院入学など非常に高いハードルしかないので、社会人が受けられるような専門講座を県でバックアップしていくような体制ができないかな。
- ・県内の大学でインターネット等の講義により修得した単位を認めて、卒業や学位を取得できる仕組みがあると良いのではないかな。
- ・育児と学びの両立を実現できるよう、高校や大学といった高等教育機関における託児所の設置を充実させると良いのではないかな。
- ・小学校や中学校でプロジェクト・ベースド・ラーニング（課題解決型学習）を進めていく中で、大学教員や大学生が子供たちの気付きにヒントを与え、学びをサポートするような関わりが持てる仕組みにしていくと、子供たちの学力はもっと伸びていくのではないかな。

実践委員会での意見（詳細）

論点 1：確かな学力の向上

新しい時代に必要となる資質・能力の育成に関する意見

- 子供たちが主体的に学習に取り組むために、授業でITを活用し、個人やチームで課題を見つけて解決していくような学習を進めていくと、実社会に出たときに必要な企画立案・実践といった能力を養えるのではないかな。
- 他県で複数の学校の生徒たちがスマートフォンの使い方についてディスカッションした結果、当事者目線で様々な提案や意見が出された好事例があった。このような子供の自発性と主体性を伸ばす教育を進めていくと、子供たちにとって学びが楽しくなるのではないかな。
- 論理的思考力を高めるためには、国語の能力を高めなければならない。国語を学ぶ目的と、学ぶことによって何の役に立つのかが見えてくるのが大切ではないかな。

優れた能力を更に伸ばすことができる教育の実現に関する意見

- 語学はビジネスのためだけに学ぶのではなく、異文化を知って自分の世界を広げるために学ぶべきなので、学校の中に異文化を身近に感じさせるきっかけや工夫があると、子供たちの世界が広がり人生が楽しくなることを感じてもらえるのではないかな。
- 学生時代から実社会で活かせる能力を育むために、学校だけではなく、企業が学生に対してもっといろいろな経験やチャンスを与えて、彼らに自信を付けさせていくことが大切ではないかな。
- 子供たちの才能を伸ばすには良い指導者と環境が不可欠であり、13～18歳くらいの才能をどのように伸ばしていくのかを見られる指導者が必要である。そうした指導者を育成できる研修の仕組みをつくるのが大切ではないかな。

その他の意見等

- 学力を上げるためには、なるべく多くの科目で習熟度別授業を実施し、テストのたびに生徒の入れ替えをしながら授業のレベルを変えていくと成果は出る。
- 子供たちのスマートフォンの使い過ぎの問題と、家庭での食の問題を改善しないと、確かな学力を向上させることは難しいのではないか。

論点 2 : ライフステージに対応した教育の充実

社会人を対象にした学習機会の充実に関する意見

- 社会人が大学や大学院へ入学・進学する際、受験勉強が大変なので、職場から学びへの橋渡しができる専門的な塾や講習の開設などのバックアップがあれば良いのではないか。
- 単発の公開講座を受けるということではない学びを求める人にとって、現状では社会人入学や大学院入学など非常に高いハードルしかないので、社会人が受けられるような専門講座を県でバックアップしていくような体制ができないか。
- 日本は資格社会であるので、県内の大学でインターネット等の講義により修得した単位を認めて、卒業や学位を取得できる仕組みを考えてみてはどうか。
- 生涯学習の観点から、育児と学びの両立を実現できるよう、高校や大学といった高等教育機関における託児所の設置を充実させると良いのではないか。
- 県の生涯学習情報発信システムに学習の場を提供する側として登録していた。良いツールなので、もっと参加者の興味を引くような周知の仕方や、有効に活用する方策を再度検証してみてはどうか。

高等教育機関と初等・中等教育との連携の在り方に関する意見

- 大学教員が一方的に話すことや、単に施設見学で終わるのではなく、小学校や中学校でプロジェクト・ベースド・ラーニング（課題解決型学習）を進めていく中で、大学教員や大学生が子供たちの気付きにヒントを与え、学びをサポートするような関わりが持てる仕組みにしていくと、子供たちの学力はもっと伸びていくのではないか。

その他の意見等

- 勉強することも大切だが、豊富な経験を活かすシルバー人材のように、定年後も自分の好きなことや得意なことを活かして、社会に関わっていくことは大切なことである。
- 人間は学び続けることが大切であり、自ら学べば、何でもどんなところでも入り込める。学ぶことが増えれば、役に立つことも広がる。それが人生の判断材料にもなるし、よりよい人間関係を構築するのにも非常に重要になる。